

巻頭言

日本におけるウェスレー研究の一齣

田添禧雄

日本ウェスレー・メソジスト学会が **1999** 年に設立されて早や **5** 年目である。そして『ウェスレー・メソジスト研究』第 **5** 号がここに発刊されることはご同慶の至りである。このようにして学会研究活動が着々と進められていることは喜ばしい限りである。

先頃、日本基督教団出版局の「礼拝と音楽」**123** 号で、特集に「ウェスレーとメソジスト教会」が取り上げられた。充実した内容で、ウェスレーとメソジスト教会を歴史的に考察しながら、現代的にどのような意義があるのかわかりやすく特集された。その執筆者は、ほとんどが日本ウェスレー・メソジスト学会の会員であることは、この学会の実績を表していることではないだろうか。

さて、本稿を書くようにと仰せつかった機会に、既に第 **1** 号の巻頭言に鶴飼勇先生が日本におけるウェスレー・メソジズム研究の流れに触れていて下さるが、さらに、日本におけるウェスレー研究の一齣について紹介させていただくことをおゆるしいいただきたい。

「ウェスレー著作刊行会」は、**1955** 年に、日本の現状において、宗教改革者達の研究に比べてジョン・ウェスレーの研究があまりにも遅れていることを憂えて、渡辺善太先生をはじめ当時の有数の方々により、新進の野呂芳男教授を中心に、まず必要なものはウェスレーの著作を日本語に訳して出版することであるとして、ウェスレーの著作の刊行事業を目的として「ウェスレー著作刊行会」を設立したのである。爾来、ジョン・ウェスレーの著作、『新約聖書註解』、『説教』、『神学論文』を全 **7** 巻で新教出版社から刊行した。当初、「手紙」、「日記」も含めて全 **10** 巻の予定であったが、山口徳夫訳の『信

仰日誌』の全訳が出版されたので、重複を避けて全 **7** 巻としたものである。ウェスレーの著作は遅々としてではあるが、絶えず出ており、現在も版を重ねている（多いものは **4** 版を重ねている）。

「日本ウェスレー学会」は **1960** 年 **11** 月に設立された。趣意書によれば「さきに宣教百年を迎え、日本における伝道と神学との問題が改めて議論されております時、ジョン・ウェスレーに対する興味と研究熱とが各方面に起こりつつあります。これを全国的なものとし、さらに研究の進展をはかり、また若きウェスレー研究者の育成のため、ここにウェスレー学会を起すことになりました。」とある。以来、ウェスレーおよびメソジズムの研究を通して日本の諸教会に貢献することを目的として活動した。

主な活動としては、「ウェスレーとメソジズム双書」(**A5・100** ページ前後)の発行(第 **6** 号まで発行)。定期公開講演の開催(通算 **20** 回)。「ウェスレー学会研修会」は毎夏 **2** 泊 **3** 日、箱根千条旅館で、全国の神学校・神学部の学生や若い教職の養成のために開催し、毎回 **30**~**40** 名の参加があった。その他、地区研究会や地方講演会を随時行った。

組織としては(敬称略で)会長に渡辺善太、名誉会員(学会創設会員として学会の設立発展に寄与された方々)に、**E・M・アダムス**、相浦忠雄、**W・ピリングスレー**、**T・T・ブランボー**、**C・H・ジャーマニー**、浜崎次郎、原野駿雄、比屋根安定、**C・W・アイグルハート**、今田恵、印具徹、河辺満甕、古坂嵩城、松本卓夫、都田恒太郎、武藤健、野呂芳男、大木金次郎、大村勇、大野寛一郎、左近義慈、鈴木正久、高柳伊三郎、山口徳夫、山崎治夫(**ABC** 順)。当初の常任委員は比屋根安定、松本卓夫、武藤健、**E・M・アダムス**、野呂芳男が当たっている。**1972** 年時には、会員数は法人会員 **11** 団体、個人会員 **193** 名。会長は渡辺善太、委員長には野呂芳男、委員には、深町正信、藤本淑子、**T・キッチン**、**J・クランメル**、松本尚明、**J・スキルマン**、田添禧雄、山内一郎、新教出版社関係委員として秋山憲兄。関西委員には、船本坂男、松村克己、宮崎明治、宇都宮信哉(**ABC** 順)である。「日本ウェスレー学会」の全活動は「ウェスレー双書第 **6** 号」に詳細に記録されている。

このような活動ができたことは、アメリカ・メソジスト教会はじめ内外教会からの多額な献金があった故であることを感謝するものである。

この「ウェスレー著作刊行会」と「日本ウェスレー学会」は、同じ目的を目指し、前者は出版事業を、後者は研究活動を、並行してそれぞれ運営してきたが、経験的に、また実際上の活動から見て統一することが時宜を得ているし、有効であるとして **1962** 年 **7** 月、「ウェスレー著作刊行会」と「日本ウェスレー学会」を傘下の置く形で「日本ウェスレー協会」を設立した。

しかしながら、残念なことに、「日本ウェスレー学会」は、**1972** 年 **6** 月、大学紛争がらみの理由で存立が不可能となりやむを得ず解散することになった。解散後は「ウェスレー研究基金委員会」と名称を改め、その一部の機能を保持し、ウェスレー著作集重版発行の資金の手当て、ウェスレー神学書・研究書の出版活動を続けている。**1985** 年には、**L・M**・スターキー著・山内一郎・清水光雄訳『ウェスレーの聖霊の神学』、**1989** 年には、**H**・リントシュトレーム著・野呂芳男訳『ウェスレーと聖化』、**1994** 年には、**R・F**・ウィアマス著・岸田紀ほか訳『宗教と労働者階級—メソジズムとイギリス労働者階級運動 **1800—1850**』（いずれも新教出版社）等がそれである。

2005 年には、諸般の都合で遅れていた野呂芳男著『ウェスレー』（かつて日本基督教団出版局から出されたものを同出版局のご好意で譲り受けたもの）を改訂出版する準備を進めている。

尚、現在の「ウェスレー著作刊行会」と「日本ウェスレー学会」からなる「日本ウェスレー協会」の委員会は、田添禧雄が委員長、委員には野呂芳男、山内一郎、T・キッチン（アメリカ在住）。J・クランメル（アメリカ在住）、藤村和義、J・ギッシュ、新教出版社関係委員・秋山憲兄が当たっている。

現在は微々たる働きしかできないが、日本のウェスレー・メソジスト研究のために何らかのお役に立つならば幸いである。

最後に日本ウェスレー・メソジスト学会がますます祝福され、日本の諸教会のため貢献されることを祈るものである。

（日本基督教団姫路福音教会・牧師）